六朝文学への思索

斯波六郎著

創文社東洋学叢書

六朝文学への思索

斯波六郎著

〔東洋学叢書〕

刊行　創文社

斯波　六郎（しば・ろくろう）
1894年石川縣に生まれる．1919年廣島高等師範學校卒業，1926年京都帝國大學卒業，1929年京都帝國大學大學院退學．廣島文理科大學助教授，教授を經て，1953年廣島大學教授，1957年定年退官，廣島大學名譽教授．1958年より大谷大學教授．文學博士．1959年逝去．
〔主要著作〕『文選李善注所引尚書攷證』（汲古書院），『文選索引』（京都大學人文科學研究所），『文選諸本の研究』（斯波博士退官記念事業會），『陶淵明詩譯注』（東門書房，北九州中國書店），『中國文學における孤獨感』（岩波文庫），『文心雕龍范注補正』（廣島大學中國文學研究室）他．

〔六朝文學への思索〕

二〇〇四年一〇月一〇日　第一刷印刷
二〇〇四年一〇月一五日　第一刷発行

著者　斯波六郎
発行者　久保井浩俊
印刷者　藤原良成

発行所　株式会社　創文社
〒101-0051
東京都千代田区麹町二-六-七
電話　〇三-三二六三-七一〇一
振替　〇〇一二〇-九-二四七二
http://www.sobunsha.co.jp

著者との申し合せにより検印省略

藤原印刷・鈴木製本

ISBN4-423-19261-6　Printed in Japan

序　言

斯波六郎先生は、文選の研究に一生を費やされた方である。いわば選學の大家であられる。むろん先生は、文心雕龍、杜甫などにも關心を持たれ、殊に杜甫の理解には、文選の研究が是非とも必要であると、考えておられた。

先生が京都大學に入られた時、たまたま鈴木豹軒先生に、文選を習われた。時に机を竝べて習われた方に、吉川幸次郎先生がおられた。共に學んで以來、二人は兄弟の如き親しき交わりを持ち、それは先生の亡くなられるまで續けられた。

先生の葬儀の日に、驅けつけられた吉川先生は、涙を抑えて弔詞を柩のなかに收められた。その副本を君にということで下さった。その中の一節を書き下し文にして、ここに示す。

君の我におけるや、氣は兄弟の如し。今　君往けり、我　金玉を失う。心　誰と共にか談らん、書　誰と共にか讀まん。我　我が恨みを述ぶ、又君の恨みを知る。君に三女有り、婚嫁已に畢わる。君に弟子有り、皆已に卓立す。君　何んぞ恨まん、而るに其の恨みを言う。君の業とする所、蕭選　是れ冠たり。長編　成り難く、語釋　未だ半ばならず。我　君の恨みを知る、長夜　何んぞ旦(あした)ならん。往いて之れを慰めんと欲す、泉路漫〻たり。嗚呼　哀しい哉、尚(こ)いねがわくは饗(う)けよ。

この弔詞を讀むと、斯波、吉川兩先生が厚い友情で結ばれていたことがよく分かる。斯波先生を痛む情が滲み出た熱涙の弔詞である。

私は、京都から原爆直後の廣島に赴任して、斯波先生が亡くなられるまで十三年間、薫陶をうけ仕えた。終始親

に仕えるような氣持ちであった。その間、講師として、助教授として十一年間、直接指導を受けた。先生は、嚴父のごとく感じられたが、時には慈父のごとくにも感じられた。

本書に收められた文選の研究の背後には、文選集注本の研究の基礎があり、先生はこの文選集注の研究に心血を注がれていた。原爆を被り、その傷いまだ癒えぬ身に拘らず、正座して机に向かい、熱中されていた。その後ろ姿を見るときには、明治生まれの嚴父の姿を思わせた。

先生は研究に打ち込んでおられる時、問題があると、直ちに私を呼び寄せられた。

校勘記のことにつき打合せ度につき御來廣の際一寸御立寄下され度く（成る可く早く）

この葉書を受け取ると、郊外に住む私は、何を置いても市内の牛田に住まわれる先生の所に飛んで行った。恩師であり、助教授である者として、當然のことである。こんな葉書が來ることを豫想して、常に緊張した毎日であった。時には、研究室に本の購入の指示があったりする。

大明遼國寶訓堂重梓本梁昭明太子文集は二萬五千圓とは驚き入る次第なれど極めて珍しき本なること明らかなれば（尤もテキストとしては餘り期待できず）研究室に備へつけて然る可し　右要用のみ

これもさっそく先生のお宅に驅けつけて、相談したこと無論である。

昭和二十六年夏、私は疲勞を覺えたので入院することになった。病は一向に治らず、かえって生死の間をさまよう大病になってしまった。先生は大變心配されて、大學の講義を終えた歸りには、必ず私の病室に來られ、じっと私の顔を見つめて居られる。何も言われない。私も先生の顔を見つめるだけ。私の眼には、こらえている涙が滲んでくる。先生は察して默って歸られた。慈父のごとくであって、私は感激の思いで一杯であった。病はやがて快方に向かい、二年たって大學に復歸した。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

先生は、文選の研究には、文選の一字索引が必要であることを痛感しておられた。この氣持ちを研究室の諸君が察し作ることにして、昭和二十四年に、文選一字索引の作業に着手した。紙の不足の時代、謄寫印刷して二十五萬枚のカードを作り上げ、これを基礎に作業した。爾來、八年閒の苦勞を重ねて、三十二年三月、京都大學人文科學研究所で、第一册が刊行された。この閒、研究所の平岡武夫教授の絶大の協力があった。この頃いただいた葉書に、

索引校正完了の由　御苦勞の程　重〻拜察　此の大事業成功を見たるは　職として貴下の力なりと存じ　深く感謝致居候　西谷君に話して慰勞宴でも開いては何如

とあり、「貴下の力」といわれ、蔭の努力を認めて下さったことに、肩の荷がおりた感がした。西谷登七郎君は、わが研究室主任であり、そのもとに白木直也君および私がおり、いずれも文選索引作成に苦勞した仲である。この葉書の終わりに先生は、

拙生校勘記整理　八分通出來候　孜〻として完成を急ぎ居候

と、その完成を念願されていたが、その文選校勘記の完成を遂に果たすことが出來ずに、三十四年十月に永遠の眠りに就かれた。ただ待望の文選索引の完成を見て喜ばれた事は幸いであった。

先生の膨大の資料の中から、本書のごとく纒めあげたのは、全く衣川賢次君のお蔭であるし、また創文社および松田眞理子さんの協力のお蔭である。先生のために、好いことをしてくださったと、心をこめて感謝の意を表する。

平成十四年十二月二日

小尾郊一

目　次

序　言……小尾郊一……i

I　文選學研究

解題　文　選……四
解題　昭明太子……六

一　李善文選注引文義例考……一〇
一　引文の目的……一一
二　引文の態度……一七
三　引文の記載法……三六

二　讀文選札記……四三
一　古詩十九首「行行重行行」……四三

二　阮元瑜「爲曹公作書與孫權」……五三
三　魏文帝「與朝歌令吳質書」……六四
四　魏文帝「與吳質書」……六九
五　魏文帝「與鍾大理書」……七七
六　曹子建「與楊德祖書」……八〇
七　曹子建「與吳季重書」……八七
八　吳季重「答東阿王書」……九二
九　嵇叔夜「與山巨源絶交書」……九六
舊鈔本文選集注卷第八十五上（首缺）校勘記……一一〇
一〇　孫子荊「爲石仲容與孫皓書」……一一八
一一　潘安仁「夏侯常侍誄」……一二六
一二　潘安仁「馬汧督誄」……一三三
一三　顏延年「陽給事誄」……一三六
三　文選譯注……一三九
一　「東都の賦」……一三九
東都賦李注攷正……一六二
二　「古詩十九首」……一六五

三　「飲馬長城窟行」……二〇五

II　文心雕龍研究

解題　文心雕龍……二一〇

一　文心雕龍札記……二一一

一　原道第一……二一一
二　徵聖第二……二三四
三　宗經第三……二五一
四　正緯第四……二七二

二　文心雕龍范注補正……二〇〇

一　原道第一……二〇一
二　徵聖第二……二〇三
三　宗經第三……二〇四
四　正緯第四……二〇五
五　辨騷第五……二〇七
六　明詩第六……二〇八
七　樂府第七……二一一
八　詮賦第八……二一三
九　頌讚第九……二一五
十　祝盟第十……二一六

十一　銘箴第十一……三一九
十二　誄碑第十二……三二二
十三　哀弔第十三……三二三
十四　雜文第十四……三二五
十五　諧隱第十五……三二七
十六　史傳第十六……三二八
十七　諸子第十七……三三三
十八　論說第十八……三三五
十九　詔策第十九……三三七
二十　檄移第二十……三四〇
二一　封禪第二十一……三四一
二二　章表第二十二……三四三
二三　奏啓第二十三……三四五
二四　議對第二十四……三四六
二五　書記第二十五……三四九
二六　神思第二十六……三五一
二七　體性第二十七……三五三
二八　風骨第二十八……三五五
二九　通變第二十九……三五六
三十　定勢第三十……三五八
三一　情采第三十一……三五八
三二　鎔裁第三十二……三六〇
三三　聲律第三十三……三六一
三四　章句第三十四……三六二
三五　麗辭第三十五……三六三
三六　比興第三十六……三六四
三七　夸飾第三十七……三六六
三八　事類第三十八……三六八
三九　練字第三十九……三六九
四十　隱秀第四十……三七〇
四一　指瑕第四十一……三七一
四二　養氣第四十二……三七二
四三　附會第四十三……三七四
四四　總術第四十四……三七六
四五　時序第四十五……三七七
四六　物色第四十六……三八〇

四七　才略第四十七……三八二
四八　知音第四十八……三八四
四九　程器第四十九……三八五
五十　序志第五十……三八八

III　六朝唐代文學研究

一　六朝人の作品に見える二三の語に就いて……三九三
二　「爲當」考……四一〇
三　文筆考……四二二
一　前輩の文筆區分說……四二二
二　文筆の意義……四四七
三　散文界に於ける書翰文の位置……四六五
四　「賦得」の意味について……四八三
五　後漢末期の「談論」について……五〇二
一　「談論」の內容……五〇二

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

二　批評的談論……五〇四
三　探究的談論……五一六
四　結　び……五二八
六　陶靖節詩箋補正……五三〇
七　杜詩札記……五四三
一　九日藍田崔氏莊……五四三
二　旅夜書懷……五四九
八　中國の人生詩人達……五五五
一　陶淵明（一）……五五五
二　陶淵明（二）……五六二
三　白樂天（一）……五七〇
四　白樂天（二）……五七六
五　李　白（一）……五八二
六　李　白（二）……五八八
七　王　維……五九四

九　雜　纂……六〇三
一　漢の文學……六〇三
二　賦……六〇九
三　古　詩……六一一
四　雜　詩……六一三
五　謝　朓……六一四
六　沈　約……六一五
七　駢　文……六一六
八　玉　篇……六一九
九　玉臺新詠……六二〇
十　詩　藪……六二一

附　篇

一　中等教育に於ける漢文の訓讀について……六二五
一　音讀・訓讀是非の論について……六二五
二　漢文教授に對する反省……六二七

三　訓讀について……六三七
四　字訓について……六四〇
五　字訓に拘泥しがちな實例……六四七
六　結　語……六五六

二　隨　筆……六六〇
一　巧みなる者より正しき者へ……六六〇
二　「日本漢學」研究の必要……六六六
三　感覺的音數と心理的音量……六六九
四　還曆祝賀會に於ける挨拶……六七四
五　古人讀書の精……六八一
六　ある一首の和歌……六九〇

斯波六郎博士　年譜……六九三
あとがき……衣川賢次……六九五
斯波六郎博士　著作目錄……13
引用文訓釋語彙索引……7
英文目次……3

CONTENTS

Preface ·····KŌICHI OBI···i

Part I Studies on the *Wen xuan* (文選)

Bibliographical Introduction: *Wen xuan* (文選), Prince Zhao ming (昭明太子) ·····4

1 Considering Li Shan's (李善) Citational Annotations on *Wen xuan* ···10

2 Notes on Reading *Wen xuan* ·····42

1) Walking On and On in *The Nineteen Ancient Poems* (古詩十九首) ·····42

2) Letter written by Ruan Yuanyu (阮元瑜) for Caogong (曹公) to Sun Quan (孫權) ·····52

3) Letter written by Emperor Wendi (文帝) of Wei (魏) to Governer Wu Zhi (吳質) of Zhaoge (朝歌) ·····64

4) Letter written by Emperor Wendi (文帝) of Wei (魏) to Wu Zhi (吳質) ·····69

5) Letter written by Emperor Wendi (文帝) of Wei (魏) to Zhong Dali (鐘大理) ·····77

6) Letter written by Cao Zijian (曹子建) to Yang Dezu (楊德祖) ···80

7) Letter written by Cao Zijian (曹子建) to Wu Jizhong (吳季重) ···87

8) Reply written by Wu Jizhong (吳季重) to Regent Prince Dong'a (東阿) ·····92

9) Letter written by Ji Shuye (嵇叔夜) Breaking off Relations with Shan Juyuan (山巨源) ·····96

Appendix: Text Critique of Ancient Manuscript on *Wen xuan Jizhu* (文選集注) vol. 85 ·····110

10) Letter written by Sun Zijing (孫子荊) for Shi Zhongrong (石仲容) to Sun Hao (孫皓) ·····118

11) Ode written by Pan Anren (潘安仁) to Xiahou Chanshi

(夏侯常侍) ……126
12) Ode written by Pan Anren (潘安仁) to Ma Qiandu (馬汧督) …132
13) Ode written by Yan Yannian (顔延年) to Yang Jishi (陽給事) ……136
3 Translations into Japanese with Annotations on *Wen xuan* ……139
1) Eastern Capital Rhapsody (東都賦) ……139
Appendix: Corrections to Annotations by Li Shan (李善) on Eastern Capital Rhapsody ……162
2) *The Nineteen Ancient Poems* (古詩十九首) ……165
3) A Drink for My Horse Alongside The Great Wall (飲馬長城窟行) ……205

Part II Studies on *The Literary Mind and The Carving Dragons* (文心雕龍)

Bibliographical Introduction: *The Literary Mind and The Carving Dragons* ……210
1 Notes on Reading *The Literary Mind and The Carving Dragons* …211
2 Ammendents and Additions to Fan Wenlan's (范文瀾) Annotations of *The Literary Mind and The Carving Dragons* ……300

Part III Studies on Six Dynasties and Tang Dynasty Literature

1 Concerning a Few Terms that Appear in Six Dynasties Works ……393
2 Studies on the Word "Wei dang" (爲當) ……410
3 Studies on the Term "Wen bi" (文筆) ……422
4 The Meaning of "Fu de" (賦得) ……483
5 On the Discussion in the End of Late Han ……502
6 Ammendents and Additions to Gu Zhi's (古直) *Annotations of the Poems of Tao Jingjie* (陶靖節) ……530
7 Notes on Reading the Poems of Du Fu (杜甫) ……543
8 Poets of Life in China ……555
9 Dictionary Entries ……602

Appendix

1 Japanese Readings of Kanbun (漢文) in Junior High School Education ····· 625
2 Miscellaneous Essays ····· 660

Biography ····· 693
Postscript ····· KENJI KINUKAWA ··· 695
List of Writings ····· 13
Index ····· 7
English Title and Contents ····· 1

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com